

～ご利用者がその人らしく生活するため、 アクトの共有化と体系化を図る～

神奈川県川崎市

小規模多機能型居宅介護 上布田つどいの家

○介護スタッフ 早川 綾子

柏崎 幸子

吉行 章子

亀井 有希

1 はじめに

私達、上布田つどいの家は神奈川ワーカーズコレクティブのメンバーで近所の主婦が中心に20歳代から70歳代までと幅広い年齢層で構成されています。ほとんどのメンバーが子育ての最中でお互いにワークシェアしながらはたらいております。地元の福祉施設を地元の主婦を中心になって「地元の人に利用していただきたい」を理念にすすめております。また世代を超えた地域交流の拠点にしたいということで上布田カフェ、手芸サークル、麻雀、子供工作教室などを開催しております。

そうしたメンバーのなかから小規模多機能の倶楽部に所属する5人のメンバーがホップ・ステップ・ジャンプという改善活動のグループを結成し上記のテーマに取り組んだものです。当初はご利用者にレクレーションを中心にしたアクトを提供することで倶楽部で楽しい時間を過ごしていただきたいと結構気楽に取り組み始めましたが、利用者が本当にその人らしく生活するアクトとはなにかという大きな壁にぶつかりながら約1年をかけて課題に挑戦し続けた活動の記録です。又、アクトが介護の一環であるからこそ利用者と一緒に一年間真正面から向き合った活動の報告です。

2 取組の紹介

① まずは現状把握から

今、上布田つどいの家が家族からもとめられているもの・・・寝たきりにならない
今、利用者がもめているもの・・・その人らしい生活を送る
この課題を達成するため4回のアンケートをとっていきました。

第1回アンケート

- ・各シフトで困っていることをかいてください。22名中12名回答 回収率54.5%
項目別に模造紙で貼り付けKJ法で検討した。

第2回アンケート

- ・アクトの現状を知るため「利用者対応で困っている事」「アクト提供で困っている事」をかいてください。

18名中15名回答 回収率100%

そのひとに合うケアが出来ているか等 55 項目の問題点がだされた。

第 3 回アンケート

- ・現状実施している体操・アクトの状況を調査するため、日勤リーダー 8 名にアンケートを実施した。

8 名中 8 名回答 回収率 100%

- ・日勤リーダー同士でもレベル差、進め方に大きな差があることが分かった。

第 4 回アンケート

- ・調査や討議の中から、個人別の体操やアクトの状況を把握することが最優先課題ということで一致した

各利用者が「一番喜ぶ体操」「一番喜ぶアクト」「一番やりたいこと」をテーマにアンケートを実施した。

18 名中 15 名回答 回収率 83.3%

以上 4 回のアンケートを通じ問題点を絞っていった結果

- ・アクトに対する知識や利用者に対する認識に差があるのにご利用者、が本当に望んでいるサービスが提供できるのか、このスタッフ間の認識差のバラツキをなくそうということ

② テーマの選定 ご利用者がその人らしく生活できるため

「アクトの共有化と体系化をはかる」をテーマとしました。

アクトの内容を充実し、他施設との差別化をはかり他に負けないサービスを提供するため全員が共通認識を持ち介護体操やアクトをできることを目標に取り組んでいくこととしました。

③ 活動計画と実績(予定 8 ヶ月、実績 12 ヶ月)

活動は当初の予定より大幅に遅れました。途中手を抜いたつもりはありませんが、私達グループが右往左往しながらやっと辿り着いた記録です。

④ 要因解析

悪さの原因を更に絞り込むため現在までの情報・データをもとに特性:アクトの提供がばらつく

要素: 1 介護スタッフ、2 しくみ、3 利用者、4 アクト内容

とし特性要因図を作成した。1 回の会合では絞り込めないでメンバー 5 名が自宅に持ち帰り要因をくわえていった。以上の結果主要因をつぎの 9 項目に絞り込んだ

1 介護スタッフ

1】認知症の理解が 2 不足

アクトの理念・目的の理解が不足

2】体操・アクトの正しい進め方の技術が不足

3】利用者への対応・提供が偏る

2 しくみ

1】アクトを運営・展開するしくみがない

2】アクトとケアプランの整合性がない

3 利用者

1】参加しない方、できない方がいる

4 アクト内容

- 1】個人別に対応したアクトが不足している
- 2】アクトの内容が整理されていない
- ⑤ 対策の立案・・・主要因の9項目に対し対策を立案した。
- ⑥ 対策の実施
 - 1】まずスタッフ変わろう
 - ・研修会への計画的参加
 - ・テキストの作成と配布(認知症ケアとアクテビテイ)
 - ・介護予防体操マニュアルの作成(朝の挨拶から歌体操まで60頁)
 - ・定期的に外部の指導をうける
 - 2】ケアマネを巻き込みケアプランへの反映
 - ・サービス担当者会議でアクトに関し個人別評価をする
 - ：班ごとにご利用者1名を選出しテーマと目標値を決める
 - ：個人別アクテビテイ評価表を作成
 - 3】個人に向き合ったアクトを作ろう・・・今実施しているアクトとできるアクトちがう
 - ・日常アクテビテイノートへの登録(55件)
 - ・個人別アクテビテイシートの作成(全利用者)
 - 4】ご利用者のおいてけぼりをつくらない
 - ・同じフロアに同席する
 - ・参加しやすい体操やアクトを提供する
 - ・スイッチオンケアを必ず実施する
 - ・個別プログラムをつくる

3 考察

効果の確認

有形効果

- 1】介護体操マニュアルを4パターン作成した
- 2】日勤リーダー8名全員と早番スタッフ5名がアクト・介護体操を提供できるようになった
- 3】歌体操17種類、指体操11種類をマニュアルに登録した
- 4】個人別アクテビテイシートをケアプランに反映し個人評価表までの仕組み作りをした
- 5】ゲームのアイデアノートに55件登録できた
- 6】スイッチオンケアを全員にすることで全員参加が可能になった

無形効果

- 1】GA活動を通して、アクトを入口に介護スタッフとして自分のあり方を見直せた
- 2】いままでやってきた自分達の介護を再評価できた
- 3】メンバー間でも介護について色々な考えがあることを知り介護について多面的に考えられた

- 4】主婦中心のメンバーで時間的制約がある中、時間を忘れ夢中で進めたGAに達成感がある

標準化と管理の定着

- 1】介護体操と見直しと外部評価を受ける
- 2】中高老年運動指導士という資格を3名取得
- 3】アクティビティシートをケアプランに反映して定着化
- 4】個人別ケアシートの定期的更新・・・リアルタイムでの情報伝達
- 5】介護体操マニュアルの全員の習得のための指導会を開催

4 おわりに

活動の振り返り

最初はアクティビティという自分達のイメージから、かなり気楽な気持ちでスタートしました。テーマを進めていくうちに単に楽しんでいただくというよりは、ご利用者一人ひとり向き合い「ご利用者が本当にその人らしい生活」を支援するために必要なアクトは何ということにぶつかりました。現在自分達がやっているアクトと本当に利用者に必要とされているアクトを含め介護について何度も討議し評価を繰り返しました。予定より時間が大幅に伸びましたがメンバーの成長にとっては不可欠な貴重な時間であったと考えます。またこの活動をとおしてケアプランのしくみと重要性を再認識し、利用者個人に本当の必要なアクトはケアプランに反映し全員で共有することで継続的に提供できることを確認しました。

自分達の思いで提案したものが家族から拒否されたり、ご利用者本人が興味を示さずボツになったものも多々ありました。自分達の気持ちや熱意だけで相手に通じるものではないという現実にも直面しました。

しかし、全員で改めて介護職として人と接すること、支援することの難しさや、厳しさを知る事ができました。

また一方では、課題を仲間とともに解決した達成感を得ることができ本当に素晴らしいGA活動でした。

「私達はワーカーズでも出来る」を合言葉に質の高いサービスを提供できる福祉施設をめざし、心を一つにし進んでいきます。